

【担当教員名】 後藤康志	対象学年	3	対象学科	ｽｽ*
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：GIO>】
 個人の幸福と社会全体の幸福を調和的に実現するために、公教育の枠組みが必要となる。ここで問題となるのは、無数の文化的価値の中からいかなる内容を選ぶのか、その選ばれた内容をいかに組織し、「なにを・いつ・だれに」教えるのかをいかに決定するかである。教育を目的・内容・方法で分けるならば、この内容に当たる部分が教育課程である。本講義では教育課程の意義、編成原理、編成上の様々な要請について検討する。ここで学んだ教育課程編成の考え方を活かし、各教科の専門科目における教育課程について分析し批判的に検討することを目標とする。

- 【<学習目標>又は<行動目標：SBO>】
1. 教育課程とその意義について、具体的な事例を挙げて説明できる。
 2. 教育課程の構成要素を理解し自分の言葉で説明できる。
 3. 教育内容編成の原理について、説明できる。
 4. 教育課程編成上の各種の要請と実際の教育課程を比較検討できる。
 5. 各専門科目における教育課程編成を分析し、批判的に検討する。
 6. グループ作業や課題に対して主体的に取り組み、自分なりの考えを持つとする。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	教育課程とカリキュラムと教育内容	1,6	講義
2	日本の学校の教育目標と教育課程	1,6	講義、グループ討議
3	教育課程の構成要素	2,6	講義、グループ討議
4	教育内容の組織化と人格・学力の関係	3,6	講義、グループ討議
5	教育内容としての学校知	3,6	講義、グループ討議
6	教育内容の存在論的基礎	3,6	講義、グループ討議
7	教育内容の認識論的基礎	3,6	講義、グループ討議
8	教育内容の構成の4つの柱	3,6	講義、グループ討議
9	教育課程編成と学問的要請	4-6	講義、グループ討議
10	教委過程編成と社会的要請	4-6	講義、グループ討議
11	教育課程の潜在的な性質	4-6	講義、グループ討議
12	教育課程の編成と心理的要請	4-6	講義、グループ討議
13	教育課程における個性の位置づけ	4-6	講義、グループ討議
14	教育課程の類型	4-6	講義、グループ討議
15	まとめ	1-6	

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	安彦忠彦「教育課程編成論 学校は何を学ぶところか」		日本放送出版協会、	2002、2,100円
参考書	安彦忠彦「新版カリキュラム研究入門」		勤草社、	1999、2,600円
その他の資料	中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領			

【評価方法】 出席：10%、ワークシート：10%、小テスト30% 期末試験50%	【履修上の留意点】 講義とグループ・個人学習を随時並行して行う。教育実習の前提科目である。 e-learningシステムを活用した講義配信や課題遂行を行うので、必要に応じてPCやLANケーブルを持参すること。
--	--